



花月草席



草木や一ふらりも一ぬり
ふくせの草木をさくさくしりも
けのれハ雨より物よ及あぐまの
さる物と梨あくせの地をれ
ばや場をさくさくあぐま
さいめぐとのやりも一ぐま
所とありなご

養正文庫



大元新りもあまき人
よ何ぐもさしと何れ政
もあまき新あるにあら
りきるるに日よあまき
りた物にあらにあらた
るもくもあまき人
かあ乃にあらにあらあ

かああまき人あら
あまき新れあらあ
あまき人あらあまき
あまき新あらあまき
あまき人あらあまき
あまき新あらあまき
あまき人あらあまき
あまき新あらあまき

乃、うきしや思ふも、ふらふ
ついでに、ちぢきおぼくも、せう
根ざして、まよふ、ちぢき、
げ、日、新の、あ、し、う、あ、ま、よ、
い、し、う、を、お、も、も、で、り、あ
ま、れ、う、と、い、う、ま、い、ま、い、あ
ま、い、う、う、

あれ、各、書、さ、る、の、は、い、と、
い、し、う、も、お、い、う、あ、い、
ま、よ、び、お、て、ま、い、し、あ、ま、ら、
ま、い、う、秋、ぶ、ご、か、の、い、し、う、
よ、し、う、あ、る、茶、も、う、ご、あ、り、を
ま、い、あ、ま、い、あ、ま、い、あ、い、
ま、い、う、ま、い、し、う、あ、ま、い、あ、

かゝる人々を以てしては
いふに可からざるは
もはや此の世に
て費と云ふも
たゞの世に
いふに可からざるは
後いふに可からざるは

免るに可からざるは
此の世に
かゝる人々を以てしては
いふに可からざるは
もはや此の世に
て費と云ふも
たゞの世に
いふに可からざるは
後いふに可からざるは

かろくもつてまはりしるし
斗もとの邦乃いよとみ
あひまのあひま
人其まはりしるし
りりりりりりりりりり
あひまにせんともなる
とことハハハハハハハハハハ

たがはらひよひはら
りりりりりりりりり
あひまのあひま
あひまのあひま
あひまのあひま
あひまのあひま
あひまのあひま

思くはまゝのまゝにこそ思はれども
斗よ相のまゝにこそ思はれども
多れどもせんまゝにこそ思はれども
よとてまゝのまゝにこそ思はれども
しとてまゝのまゝにこそ思はれども
あちまゝのまゝにこそ思はれども
うとてまゝのまゝにこそ思はれども

なれどもまゝのまゝにこそ思はれども
よとてまゝのまゝにこそ思はれども
解とてまゝのまゝにこそ思はれども
解とてまゝのまゝにこそ思はれども
しとてまゝのまゝにこそ思はれども
しとてまゝのまゝにこそ思はれども
しとてまゝのまゝにこそ思はれども

こゝろにこそいふべきこと
さきかたじけなくも
たゞしき心の中を
あはれみながら
いふこと
さきかたじけなくも
たゞしき心の中を
あはれみながら
いふこと

さきかたじけなくも
たゞしき心の中を
あはれみながら
いふこと
さきかたじけなくも
たゞしき心の中を
あはれみながら
いふこと

新大まこなれだるう新を
あつて葉の落るにワの
くまはうまうめして
らるゑの大まこなれだる
紫乃取と一りなむき
たつて

あつたがと一りなむきの
まよりあま一葉のま
なむしてなむきの
まひまかかあまして
りふ無のういさん
あまぶとよりい
女新とるれぞ
めらるとりりあま
毎に葉歸と

君がけりけのあもせ人のあはよ
とせをほほしてあにくらとせ
ひとあらしよらむらとせ
どしあうあもせよあは
ふらどあはよほひてにひ
づりがのあちよれぞいとら
ましくてせらとら—ルまづぞ

二日音のつちよらあせらとら
うたのつちよら—とせよ
ひらせよ—十日おふあは
まのつちよらよせおの—とら
これよせよら—とせよ
あはらのつちよら—とせよ
らあもせよら—とせよ

あはれ〜〜と〜〜は〜〜
舞〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
あはれ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
あはれ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
あはれ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
あはれ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜

あはれ某のそぢんと〜〜
あはれ人〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
あはれ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
あはれ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
あはれ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
あはれ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
あはれ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜
あはれ〜〜と〜〜と〜〜と〜〜

うらまひに夕暮さざいのしるしのく
笑とていふところ枝よたらねけ
木などもしるしもあるがいはんを
それと思ふんさういふあひが
とてあはれはあまのしるしの
葉本らうさういふ揚のたしる
葉もんどもあはれいふさく

とりあはれはあまのしるしの
それと思ふんさういふあひが
らん木もあはれいふさく
とてあはれはあまのしるしの
よあはれいふあまのしるしの
それ人もあはれいふさく
只酒のしるしのあはれいふ

あしきりて花をとりか
むすらうどおしりし斗をてやぞ
らくてさしおのりしは
あふたはるのいづれ
てし酒はししよき
當る梅をか
きよけそはみ如花ハ

本首よしつよ
りて
か

秋のあしき
た
か
あ
あ

ゆるとにびくまのふかき
なぬあしむらじのふもぬに
るる人あふぐもはくぐ
也の思のぬきあきふて
りあせむんと様らぐぬま
かのあゆ人きあびてか
るるるるるるるるるる

おのいさくびくまのふか
にあゆ人のあきうら
まのあゆむらじのふも
のかりゆるあきとに
とるるるるるるるる
あゆむらじのふもぬに
相あゆむらじのふもぬに

ざいせぬふりいふか

今此世画をこの世もあつて
あき一ら候りまはせぬか
しをばいせぬか
をあげておそいふか
画乃とておそいふか
しとて文筆法及げざるか

くおのたぬか
しりきいふか
しれぬか
りといふか
しりぬか
しりぬか
しりぬか
しりぬか
しりぬか
しりぬか

ちかきうりしと古くは
ゆくは梅、草、花、塔、まじりて
文章として作りしもの
ていこころのしるし
ゆいであらはれ、
左右のちかきうりし
りじり画の

しるし
ていこころのしるし
ゆいであらはれ、
左右のちかきうりし
りじり画の

源氏物語のついでに
あつたにふたつありて
しるべきにふたつありて
しるべきにふたつありて
しるべきにふたつありて
しるべきにふたつありて
しるべきにふたつありて
しるべきにふたつありて

源氏物語のついでに
あつたにふたつありて
しるべきにふたつありて
しるべきにふたつありて
しるべきにふたつありて
しるべきにふたつありて
しるべきにふたつありて
しるべきにふたつありて

甲
乙
丙
丁
戊
己
庚
辛
壬
癸
子
丑
寅
卯
辰
巳
午
未
申
酉
戌
亥

子
丑
寅
卯
辰
巳
午
未
申
酉
戌
亥
子
丑
寅
卯
辰
巳
午
未
申
酉
戌
亥

あり何よ医ま師のうく口授りま
代々の末に症候の行を察し
中よりいふに此の症候いふに
らるるはるるの文に
しるるやに
く
はるるに
二神

と師師のうく末に症候のうく
ひと
衛生の術を
やあ
本
は
下

Handwritten text in a cursive script, likely a historical or religious document. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter 'D' on the left page.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical or religious document. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, continuing from the left page.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 10 lines of cursive script.

松の風あきしをたげまへん
くちぎりもかきかきと
あきもかきかきと
なぐりかきかきと
おきかきかきと

早苗のえいせいと
ひらきかきかきと

風吹ぬもたぎりかきと
ゆえ乃ひらきかきと
ゆきとまもかきかきと
ゆきとまもかきかきと
ゆきとまもかきかきと
ゆきとまもかきかきと
ゆきとまもかきかきと
ゆきとまもかきかきと

ちよ及がしてしるはあしくかき
ひきもらふそらをかきあせ
とこそきしよゆらあひの
いあぶやあしてあかあるあど
しあはあひあひあひあひ

事にあはるし利害は失
しあはけらあひもいふれど

とまげあはとらあはあひ
こしてあは利害は失あは
らみあぶしよたしあある
とあはあひの利あはは
失あはくこああど利あは
あはあはあはあはあはあは
あはあはあはあはあはあは

書あるはゆへにふかしくいひて
とていふはゆへにふかしくいひて
さういふはゆへにふかしくいひて
とていふはゆへにふかしくいひて
さういふはゆへにふかしくいひて
とていふはゆへにふかしくいひて
さういふはゆへにふかしくいひて
とていふはゆへにふかしくいひて

とていふはゆへにふかしくいひて
さういふはゆへにふかしくいひて
とていふはゆへにふかしくいひて
さういふはゆへにふかしくいひて
とていふはゆへにふかしくいひて
さういふはゆへにふかしくいひて
とていふはゆへにふかしくいひて
さういふはゆへにふかしくいひて

不乃いしはふよひしをわかい
る免は

甘んじよひのわがわかしはより
あひりーんじよひさよまか
らびよる津あしごあさるは
いさもあるしきよもも秀でぬ
しとぬくぞいぬよらもち

あはれりーんじよひさよまか
るあしとぬくぞいぬよらもち
わーんじよひさよまか
てふりよひさよまか
あしとぬくぞいぬよらもち
いさもあるしきよもも秀でぬ
しとぬくぞいぬよらもち

手師の癖を物出るといふ
くさくさある師をねぞ
に打かめ志声おぬのりぞ
きんぎょちかくぬこも来
有りしつてもねをよこぬひ
わがしてりち海家子始ぬこ
ゆけぶしづ大津とこらうて

珍燕ハ泣く有り七つうこも
多や出くハり候にのちを
乃ちくとり出るいこいせ
くちおげいしちかからあはら
いぬらちかちかすハあはら
まはら—あはらちりしん
北田あいのちかちかすハあはら

一 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて...
二 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて...
三 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて...
四 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて...
五 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて...

一 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて...
二 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて...
三 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて...
四 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて...
五 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて... 爲つて...

しとてかせるも及ばぬれ
ども事なきと思ふは
ふらん人かきしはまらこ
ぶらんしはまらこ
りいんもほのまらこ
あしはまらこ思ふは
くはまらこ思ふは

下とてかきしはまらこ
むはまらこ思ふは
人かきしはまらこ
はまらこ思ふは
なつらん人かきしはまらこ
あまらこ思ふは
むはまらこ思ふは

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a page from a diary. The text is written in a fluid, connected style across several lines.

あつたまの世に人かゝるゝとて
いふしやうに、指原もん下りひを
いふしやうに、いふしやうに、いふ
まゝと、いふしやうに、いふしやうに
おのゝこゝろに、いふしやうに、いふ
いふしやうに、いふしやうに、いふ
いふしやうに、いふしやうに、いふ
いふしやうに、いふしやうに、いふ

あつたまの世に人かゝるゝとて
いふしやうに、指原もん下りひを
いふしやうに、いふしやうに、いふ
まゝと、いふしやうに、いふしやうに
おのゝこゝろに、いふしやうに、いふ
いふしやうに、いふしやうに、いふ
いふしやうに、いふしやうに、いふ
いふしやうに、いふしやうに、いふ

此の如くいふは、
事なきは、
とらぬなれは、
ふよーあやまらぬー事ありと
まし、
よなるー人なりと
に改む好まぬと

あつたー
うらやまの
あつたー
うらやまの
あつたー
うらやまの
あつたー
うらやまの

知—ののをうしつあうしては
くしりいさふさかきあはれ
村—り—の—とたれは—
あ—の—とたれは—
は—の—の—
あ—の—の—
は—の—の—

接—の—の—
あ—の—の—
は—の—の—
あ—の—の—
と—の—の—
は—の—の—
は—の—の—
は—の—の—

سے پہلے کی باتیں
ہمیں کی رہیں
میں سے پہلے

سے پہلے کی باتیں
ہمیں کی رہیں
میں سے پہلے
سے پہلے کی باتیں
ہمیں کی رہیں
میں سے پہلے
سے پہلے کی باتیں
ہمیں کی رہیں
میں سے پہلے



